

まちづくり交付金 事後評価シート
羽後境駅周辺地区

平成21年12月

秋田県大仙市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	秋田県	市町村名	大仙市	地区名	羽後境駅周辺			面積	128ha
交付期間	平成17年度～平成21年度	事後評価実施時期	平成21年度	交付対象事業費	1,629.6百万円	国費率	0.289		

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	基幹事業		道路(苅谷沢線・駅東線・境菅生田線(流雪溝))、公園(苅谷沢中央公園)、地域生活基盤施設(東口交通広場・地域案内板)、高次都市施設(地域交流センター)、公営住宅等整備(公営住宅整備)						
	提案事業		地域創造支援事業(運動施設整備事業)、事業活用調査(アンケート調査)、まちづくり活動推進事業(事業モニタリング・住民活動支援)						
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	基幹事業		道路(境菅生田線(流雪溝))		他の事業へ移行(現地再調査の結果)		影響なし		
	提案事業		事業活用調査(アンケート調査)		事業効果分析へ移行。		影響なし		
新たに追加した事業	基幹事業		-		-		-		
	提案事業		1.地域創造支援事業(老朽化した建築物の除去) 2.事業活用調査(事業効果分析)		1.公営住宅予定地に建っていた老朽化した旧縫製工場(市有普通財産)の解体するため追加。 2.事業の成果及び実施過程の検証並びにフォローアップを確実に進めるため。		影響なし		
交付期間の変更		当初	平成17年度～平成21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				
		変更	変更なし						

2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標①-1	公園・地域交流センター利用者満足度	%	10	H16	50	H21	—	84	○	あり なし	地域住民の意見を聞きながら計画しているため期待が高まっている。	H22年10月
指標①-2	地域間交流人口	人/年	99,793	H15	124,000	H21	—	124,826	○	あり なし	体育館の建設や道路・案内板整備を行ったことにより、施設利用者が増加し地域間交流及び世代間交流が促進されている。	—
指標②-1	地区内居住人口	人	1,650	H16	1,680	H21	—	1,598	△	あり なし	● 少子高齢化などにより若年層が減少しているなか、当該事業により公営住宅等を整備し住みやすい魅力的な環境を創出できたことは、居住人口の増加・定住促進に繋がると思われる。	H22年6月
指標②-2	地区内若年者比率(15歳～29歳)	%	15	H16	17	H21	—	12.7	△	あり なし	● 少子高齢化などにより若年層が減少しているなか、当該事業により公営住宅等を整備し若年者が住みやすい魅力的な環境を創出できたことは、若年者人口の増加・定住促進に繋がると思われる。	H22年6月

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	地区内世帯数	世帯	557	H16	/	/	—	571	/	/	公営住宅などを整備し地区内世帯数が増えることにより、地区内の定住促進・若年層を含めた人口増加に繋がると思われる。	H22年6月
その他の数値指標2	地区内若年者人口(15歳～34歳)	人	263	H20	/	/	—	273	/	/	公営住宅などを整備し住みやすい居住環境を提供することにより、地区内の定住促進・若年層を含めた人口増加に繋がると思われる。	H22年6月

4) 定性的な効果発現状況

- ・地域案内板の整備により、地域内の公共施設や文化資源等に容易に誘導することができ、施設利用者数も増加している。
- ・駅東線を整備したことにより、交通の利便性が向上したことから、東西の地域間道路として通勤などに使用する人が増加し交通量が増加している。
- ・新協和体育館を整備したことにより、高齢者から若者まで幅広い年代へ年間を通した憩いの場・健康づくりの場を提供できている。また、本格的な屋内競技を開催できることから、地域間交流及び世代間交流の促進の場ともなっている。

5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等	
モニタリング	交付期間中において、事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、まちづくり推進協議会を継続的に開催し、事業成果について評価や事業の進め方の改善等を行うためのモニタリングを実施し	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	今後まちづくり推進協議会と事業の進め方や改善策等について意見交換を行い、羽後境駅周辺地区の魅力と活力のあるまちづくり活動を進めて行く。		
住民参加プロセス	交付期間中において、地域住民と一体となり目標に向けて確実な効果をあげるために、まちづくり推進協議会を継続的に開催し、事業説明や意見交換等を行った。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	今後まちづくり推進協議会とまちづくりの課題や活性化に向けた実現方策などについて意見交換などを行い、羽後境駅周辺地区の魅力と活力のあるまちづくり活動を進めて行く。		
持続的なまちづくり体制の構築	まちづくり交付金事業により発足した「まちづくり推進協議会」が、事業終了後も羽後境駅周辺地区のまちづくり活動を継続する。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	本事業によりハード的な交流空間は整ったことから、今後は事業後の評価を行いながら交流空間の最大活用を目指してソフト的な取組みを充実し、行政と地域住民が一体となり協働のまちづくりを進めていく。		

様式2-2 地区の概要

羽後境駅周辺地区(秋田県大仙市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標: 地域交流拠点の形成による賑わいの創出と地理的特性を活かした住環境の形成による若者定住化の促進 目標①: 羽後境駅周辺の交通機能の充実と、自然環境を活用したやすらぎのある空間の創出により、地域住民の交流を促進する。 目標②: 地域の利便性を考慮した若者定住環境の整備によりにぎわいを再生する。	公園・地域交流センター利用者満足度	単位: %	10	H16	50	H21	84	H21
	地域間交流人口	単位: 人/年	99,793	H15	124,000	H21	124,826	H21
	地区内居住人口	単位: 人	1,650	H16	1,680	H21	1,598	H21
	地区内若年者比率	単位: %	15.0	H16	17.0	H21	12.7	H21

関連事業

- 教育施設整備事業 (組合小学校建築事業) / 大仙市 ※場所未定
- 関連事業 上下道整備事業 (中央地区簡易水道増補改良事業) / 大仙市

基幹事業

- 公園 / 刈谷沢中央公園 / 大仙市 【地域交流の場の創出】
- 高次都市施設 / 地域交流センター / 大仙市 【地域交流の場の創出】
- 道路 / 刈谷沢線 / 大仙市 【良好な居住環境の創出、都市内骨格道路形成】
- 道路 / 飯東線 / 大仙市 【良好な居住環境の創出、都市内骨格道路形成】
- 公営住宅等整備 / 公営住宅 / 大仙市 【若者定住促進】
- 地域生活基盤施設 / 羽後境駅東口交通広場 / 大仙市 【良好な居住環境の創出、都市内骨格道路形成】
- 地域生活基盤施設 / 地域案内板 / 大仙市 【各資源・施設への誘導】 ※案内板の設置は以下の通り、案内板 説明板

提案事業

- 地域創造支援事業 (大仙市新協和体育館建設事業)
- 事業活用調査 / 事業効果分析 / 大仙市
まちづくり活動推進事業 / まちづくり推進協議会 / 大仙市
まちづくり活動推進事業 / ミニふるさと創生事業 / 大仙市
- 地域創造支援事業 / 大仙市 (老朽化した建築物の除去)

参考

- 市民センター「和ピア」・・・事業主体 / 大仙市 年間利用者数: 39,063人
- サン・スポーツランド協和・・・事業主体 / 大仙市 年間利用者数: 34,364人
- 「能楽殿」・・・事業主体 / 大仙市 年間入込客数: 2,796人
・薪能公演・・・来訪者数: 520人/年
・定期能公演・・・来訪者数: 620人/年
- 物部長種記念館・・・事業主体 / 大仙市 年間入込客数: 2,730人
- 唐松神社・・・来訪者数: 19,700人/年 計 99,793人/年

区域設定の理由

国道13号と淀川に囲まれた、JRにより地区が東西に分断されている地区

Scale: S=1:15,000

Photos: (新協和体育館), (東口交通広場), (刈谷沢線), (地域案内板), (公営住宅整備イメージ), (唐松神社), (JR羽後境駅)

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 駅東口交通広場の整備により、通勤通学時間帯の混雑時にも自動車、歩行者ともに安全性が向上した。 狭小だった営林署踏切の拡幅及び歩道の整備を行ったことにより、歩行者の安全性が向上しJR奥羽本線により分断されている東西地域間の往来が容易になり、国道13号線へのアクセス性も向上した。
今後のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 今後も地域内の公共施設や文化資源等をアピールし、地域間交流を推進する。 当地区は、秋田市に隣接していることから、立地条件の良さ等をアピールし、今後も若年者等の定住促進を図っていく。